

学会誌の創刊によせて

この度、日本造血細胞移植学会では、学会の機関誌として日本造血細胞移植学会雑誌（Journal of Hematopoietic Cell Transplantation）を発刊することになりました。現時点では、ヨーロッパ造血細胞移植学会の Bone Marrow Transplantation (BMT)、アメリカ造血細胞移植学会の Biology of Blood and Marrow Transplantation (BBMT) などの機関誌には遥かに及びませんが、これらも発刊当時は極めて薄いパンフレットのような雑誌で、review や announcement などが大半を占めるものであったと記憶しています。それが、ここまで国際的な journals に成長した背景には、多くの会員の雑誌を育てる熱意と様々なアイデアが大きく貢献したことは言うまでもありません。学会誌の持つ機能は様々です。毎年開催される年次総会に加えて、臨床的に有用な新知見を共有する機会の拡大、新規ガイドラインなどの周知徹底、若手の移植医の教育と様々な活動の asset としてこの雑誌を役立て育んでください。この学会の大きな貴重な原動力である、移植チーム医療に携わる医師以外の多くの職種の方々にもぜひ積極的な参加をお願いしたいと思います。将来的には、この雑誌が BMT や BBMT と肩を並べる Asian Blood and Marrow Transplantation Group の機関誌として国際的に認知されるようになることを願っていますが、その前段階として J-STAGE に参加するために年間 100 件ほどの投稿が必要です。学会および学会誌の発展のため、是非多くの学会員の方々からの投稿をお願いいたします。最後に、この雑誌の創刊に尽力頂いた編集委員会の方々、創刊号に論文を投稿いただいた学会員の方々に心より感謝申し上げます。



学会誌創刊に当たってのご挨拶

この度、編集委員会委員各位の精力的なご努力により日本造血細胞移植学会の機関誌として日本造血細胞移植学会雑誌（Journal of Hematopoietic Cell Transplantation）が発刊されることになり、誠に嬉しい限りです。また、投稿論文が集まらなければ創刊号の発行も実現しないわけですので、多くの学会員からの原稿が寄せられたことにも感謝申し上げます。この1年位をかけて、編集委員会を中心に学会誌の在り方に関して検討して頂き、そこで練られた案をさらに理事会で審議して今日に至ったのですが、一番の課題は全て英文にすべきか、あるいは和文も可とするかということでした。ヨーロッパ造血細胞移植学会の Bone Marrow Transplantation、アメリカ造血細胞移植学会の Biology of Blood and Marrow Transplantation などの機関誌が、一定の評価を受けて機能しておりますので、日本造血細胞移植学会の機関誌も将来的には全て英文が望ましいと思われませんが、本学会に関わる会員が種々であることを踏まえ、最初から高望みをしないことに落ち着きました。一旦、決まった体裁を変えるには、それなりのエネルギーを要しますが、出来るだけ早期に全て英文化することも視野に入れて、取り敢えず動き出すことを優先したいと考えたわけです。それによって、学会員からの造血細胞移植に関する貴重な臨床研究、基礎研究、症例報告などを掲載することができ、本学会の学術面でのさらなる活性化につながるものと期待されます。学会員の皆様には、本学会誌の刊行を契機に、従来は年1回の総会でしか他施設の発表に触れることができなかつた分を補う意味でも、また論文として発表することで、より多くの方に読んでいただける機会を増やし、お互いに刺激し合う意味でも、是非多数の興味深いまた内容の濃い論文を投稿して下さいますようお願い致します。この機関誌が、皆様のご理解とご協力のもと造血細胞移植医療の発展に結び付くものとなりますようお願いしております。



日本造血細胞移植学会 前理事長 今村 雅寛

日本造血細胞移植学会雑誌創刊に際して

本学会が固有の雑誌を有することを心から嬉しく思い、安堵感の様なものが胸を満たしている。学会誌は単に日本医学会への参加基準を満たすというようにこと以上に、学会の“武器”だと考えるからである。本学会らしい仲間の仕事を見出だし、海外の専門家集団も含めた査読者による厳正な審査の上世に問う、そういった個性あふれる情報交換の仕組みになることを願っている。本学会誌の前身ともいべきJSHCT Letterにも、“施設紹介”や“私の選んだ重要論文”に个性的情報発信の萌芽がみられるが、学会誌に掲載される論文もそれを受け継いでほしいと思っている。造血細胞移植領域に特有な重要性を持ったトピックスは在るのであり、わが国やアジアに特有なトピックスも在るのであって、そういったものが他の学会誌に先駆けて掲載されることを願っている。症例報告や、それらの症例に基盤を置いた臨床研究、臨床研究から湧いてくる疑問に光をあてるための基礎研究、そしてその成果の臨床への還元といった道筋が、本学会誌を通覧して見えてくるようなものになると良いと思う。とは言え、これらを実現するには並みのことでは出来ないことは、この創刊号の準備からも推察され、編集委員会と事務局の多大な努力を人的、財政的により支援しなければならないことを痛感している。言語の問題もある。Co-medicalも含め多くの本学会会員が気軽に読みたくなるものでなければならないが、他方アジア、欧米の仲間にも読み、引用してもらいたい。この二律背反を実現するにはやはり英語、日本語併記であろうか（今回創刊号に掲載されることになった我々の論文が和文だけなのであまり大きなことは言えないが）。個人的には、将来本学会誌が、APBMTの参加諸国を巻き込み、APBMTの学会誌に発展すると良いな、と思っているので言語問題は常に考えていかなければならないであろう。例えば我々は各種ガイドラインや移植・採取施設認定基準（これは関連組織である骨髄移植推進財団や日本さい帯血バンクネットワークのものが多いが）を持っているのだが、現在の国際語たる英訳が無いと、海外から見ればそれらは存在しないに等しい。“我が国にもちゃんとありますよ”と言うだけで、内容（メッセージ）を伝える努力をしないのは、お互いに情報を交換し学び合いたいと思っている世界の仲間に対して結果的には不誠実であると言われても仕方がないであろう。本学会誌を借りてこうした造血細胞移植に関わる基盤的情報も海外発信するとすれば、翻訳機能も編集委員会内に備えなければならないかもしれない。なにはともあれ創刊号が発刊された。学術総会と並ぶ学会誌という学会の二大事業のもう一方の礎が築かれ、本学会が新しい飛躍の時代に入ったことを共に喜びたい。



日本造血細胞移植学会 元理事長、前学会会長、現学会アドバイザー 小寺 良尚

Journal of Hematopoietic Cell Transplantation 創刊のご挨拶

日本造血細胞移植学会雑誌としてJournal of Hematopoietic Cell Transplantation (JHCT) が創刊されるにあたりまして、前編集委員会委員長として、一言ご挨拶申し上げます。

本誌の発刊は、昨年不幸な福島原発事故を契機として、日本造血細胞移植学会の活動を広く社会に知っていただき、学会として社会、特に国際社会に対しても確固たる意見を発信いくべきだという機運の中から決まりました。正直に申し上げますと、そういったいきさつ自体に対しては、事故の深刻さを考えると複雑な思いを抱かざるをえませんでした。ある意味で本誌の果たすべき使命が最初から明確であったことは、当時の編集委員会委員長として、発刊に向けて物事を進めていく上では大変やりやすいことではありました。たまたまその頃編集委員会で本学会の「ニューズレター」の電子化の話が進んでおりましたので、「ニューズレター」を含めた電子ジャーナルとして本誌を発刊することになりました。ただ、自分というのも何ですが、私はひどい機械音痴ですので、私のもとでJHCTを電子ジャーナルとして発刊することについては、当初かなり絶望的な気分でしたが、現編集委員会委員長の赤塚美樹先生に随分助けていただき、こうして学会員の皆様にJHCT創刊号を何とかお届けできることになりました。(赤塚先生のお力で本誌が発刊できたといっても、決して過言ではありません。)

もちろん、本誌の発刊にあたっては、赤塚先生の他にも、前理事長の今村先生、前学会会長の小寺先生、現理事長の岡本先生、第34回総会会長の園田先生、事務局の中村さん、半田さん、編集委員会委員の先生方など、全ての方のお名前をあげることはできませんが、多くの方たちのお力添えによるものです。本誌の創刊に携われた全ての方々に、この場を借りて心からお礼申し上げます。

また、最後になりましたが、学会員の皆様をお願い申し上げます。皆様のお力で本誌を素晴らしい雑誌に育てていただければ、本誌の発刊に多少なりともかかわった者として、これにまさる喜びはありません。何卒よろしく願い申し上げます。



日本造血細胞移植学会 前編集委員会委員長 辻 浩一郎

日本造血細胞移植学会雑誌創刊に寄せて

日本造血細胞移植学会雑誌 (Journal of Hematopoietic Cell Transplantation: JHCT) (季刊) 第1巻第1号をお届けいたします。昨年10月に理事会にて学会誌発刊の決定がなされ、半年間でなんとか創刊に漕ぎ着けました。長い道のりでした。この間、理事会、編集委員会、日本造血細胞移植学会事務局、データセンター、論文やニュースレター記事の著者の方々、雑誌ウェブサイトバナーに応募いただいた方々、そして会員の皆様からさまざまな形で多大な支援をいただきました。ここに厚く御礼を申し上げます。他の学会よりも読者層が広い学会の情報誌でありながら、世界にも情報発信をしていきたいという皆様の期待をひしひしと感じており、これから取り組んでいく課題はまだまだ山積しています。

学会誌の発刊に際しては、研究成果の迅速な発信・インターネットによる国内外での評価、そしてコスト面を考慮して、完全オンラインジャーナルという発行形態を採用するに至りました。また創刊当初より広く閲覧されることを狙い、会員のインセンティブの観点からは議論もありましたが、課金の発生しないオープンジャーナルとしての刊行となりました。

今後のステップとして、PubMed・CrossRef等を経由して海外の様々な電子ジャーナルサイト上の論文と相互にリンクされることを目指し、すでに加入許可が得られました独立行政法人科学技術振興機構の「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)の利用開始を予定しており、第1巻3号からの運用開始を目標としております。この4月から新J-STAGEが稼働しており、まさにそこへ私たちのオンラインジャーナルを接続する作業が始まらんとしています。

これまで本学会の情報伝達・交流の場として重要な役割を担ってきたニュースレターに関しましては、本年1月6日の会員メールでもお知らせいたしましたように、今回No. 46号からは「日本造血細胞移植学会雑誌」内において、学会からの報告「JSHCT Letter」として掲載されることとなりました。こちらの内容も海外との交流を見据えながら、進化させねばなりません。創刊号の準備をしていて、言葉の壁をどう乗り越えるか、みんなで乗り越えるのか、共存していくのか、ずっと答えを模索してきましたが、まだ良いアイデアは出ておりません。皆様のお知恵を拝借しながら、進化を続けていきたいと思っております。もちろん学会誌である以上、どしどし研究成果を投稿して世に問うていただけることが一番重要であることは言うまでもありません。今後さらに内容の充実に努めてまいりますので、ともども宜しくお願い致します。



日本造血細胞移植学会 編集委員会委員長 赤塚 美樹